

第十八回「しきなみ賞」「しきなみ新人賞」 入選速報

しきなみ賞（敬称略）

最優秀賞（一名）

ページ 1

優秀賞（二名）

2

佳作（十五名）

3

しきなみ新人賞（敬称略）

最優秀賞（二名）

5

優秀賞（二名）

6

佳作（十九名）

7

しきなみ賞

【最優秀賞】

●妻の病

西谷 昭男（兵庫・長田・群螢集）

- ・ 淡淡と病名告ぐる医師の声驚く妻のはじめての顔
- ・ 「こんなにも痩せてしまって」妻の爪切れば朝日が床に差し込む
- ・ 誰に告げることなき妻の病なり寒き日続き孤独となりぬ
- ・ 「おやすみ」と蚊の泣くような声で言う痩せ過ぎの背に目をそらしたり
- ・ M R I 検査の妻を待つあいだ微かにながれる楽の音を聞く

【優秀賞】

● 移りゆく四季

向田美代子（茨城・飯島・群螢集）

- ・ ふるさとの筑波の嶺を紫にきは立て初春の陽の昇り初む
- ・ そよ風の丘に望めば樹々の間ゆ鎮もる湖の遠光りせり
- ・ 百僧の読経のごとき蝉の声聞きつついつしか無我となりゆく
- ・ 朝霧の覆ひし空に日輪は満月のごと淡あは浮かぶ
- ・ 閑かなる琥珀の色の夕光に庭の山茶花しらしらと散る

● 夕陽のかけら

本多 陽子（熊本・長嶺・群螢集）

- ・ 秋空にハートの形の雲浮かぶ人にも空にも心あるらし
- ・ あの世への電話のような彼岸花もしもし父さん元気にしてる
- ・ 病める身に秋風深く吸いこめば光の花が胸に一輪
- ・ 秋桜にそっと手を添え感じ取る風に微笑む花の心を
- ・ 母さんときれいな落ち葉集めたり銀杏黄葉は夕陽のかけら

【佳作】（五首中一首を紹介）

- ・ 小野 順子（宮城・石巻・真砂集）
- ・ 震災の二年目にして「又やっぺす」鹿嶋ばやしの再開決まる
- ・ 石渡貫一郎（千葉・五井・飛雲集）
- ・ 津波もて襲いかりし彼の海がいま詫びるがに祈るがに凧ぐ
- ・ 草刈 董（千葉・北条・白光集）
- ・ 神域を揺るがし響く大鼓の音短歌奉奠の儀式始る
- ・ 大野 公子（東京・大泉・真砂集）
- ・ 夫逝きし月はたましい居ることく気配の満ちる部屋の清しさ
- ・ 吉田 幸子（三重・四日市中央・飛雲集）
- ・ 三人の子育て出来ず亡き母は我を養女に泣きつつ手離す
- ・ 高山美智子（大阪・中央東・群螢集）
- ・ 寡婦となり煙草屋商いビルを建て四人の子育て明治の母は
- ・ 今北喜代子（兵庫・川西・群螢集）
- ・ お母ちゃんの話をするとお父ちゃん顔くちやくちやに笑っています
- ・ 楠山 央子（兵庫・西宮中央・真砂集）
- ・ 三人の娘を皆嫁がせて「墓はいらぬ」と言いし父かも
- ・ 瀬野 真樹子（福岡・室見・群螢集）
- ・ 三キロにも満たぬ体で生まれ出づ吾子に称賛の口づけをする
- ・ 川波 智江（福岡・南久・飛雲集）
- ・ 一人では立てぬを吾に身を任す夫の悲しみ両手で抱く
- ・ 嘉村 聡子（佐賀・与賀町・白光集）
- ・ ガラス越し大好きと動くくちびるを吾子は読み取りほほえみかえす

・ 矢野 房代（大分・岩屋・群螢集）

・ 目の見えぬ亡母の介護をする度に吾れに向いて手を合わせたたり

・ 大島 安徳（鹿児島・龍郷・群螢集）

・ 亡き妻の釣糸固き結び目を解けばうるこの光り出でくる

・ 川内 尚枝（鹿児島・龍郷・飛雲集）

・ 「帰りたい島の海見たい」繰り言す姑^{はは}を背負いて海を見せたり

・ 神谷 優子（沖縄・石嶺・真砂集）

・ 願わくば生まれ変われるその日まで辺野古の海よ変わらずにあれ

しきなみ新人賞

【最優秀賞】

● 三人目の吾子

岡野 啓（埼玉・北与野）

- ・ かぼそい手かぼそい足を大の字に赤ちゃん吾子は宙を見ている
- ・ 泣き顔も泣き出す声も可愛いと思える余裕三人目の吾子
- ・ 晴れた朝皆待つ家に退院すしつかり赤子胸に抱いて
- ・ 生れたての小さな体で幸を皆にもたらず生命のいぶき
- ・ 親になるために私は産まれたと子等の寝顔を見ながら思う

● 家内

石井 太郎（埼玉・寿）

- ・ 病床で辛いと言いし妻の愚痴何も出来ずになすすべもなし
- ・ 旅立ちし妻は柩に綿帽子我を置き去り誰に嫁ぐか
- ・ クリスマスLEDを点ける日は亡妻の明るさ想い出すなり
- ・ 淋しき夜はサンタに願うもう一度妻のぬくもり抱きしめたと
- ・ 亡き妻の墓に詣でて帰れどもポスト淋しき喪中の元旦

【優秀賞】

● 継母

厚美 まち子（福島・福島中央）

- ・新しい母さんだよと諭されて十歳われに光さしくる
- ・継母かあさんと初めて一緒のお正月われを包みしいろりの赤い火
- ・後妻ゆえ苦労山ほどあつたはずを愚痴言わぬ継母老いたる今も
- ・山程のラブレター燃し嫁いだと老いたる継母は皆を笑わす
- ・よく笑いいつも強気な継母が好きあなたのようにきつとなるから

● 息子よ

古川 幸子（熊本・平井）

- ・ほほえむが如く棺に眠る息子よ「これは冗談」と言いて目覚めよ
- ・横浜より亡き息子よの友は駆けつけて「お母さん」とわれ呼びくれる
- ・遺影の前七人の友に懐石を並ぶ手もとに涙のこぼる
- ・逝きし息子よの椅子そのままのテーブルに言葉少なき夫との食事
- ・逝きし息子よの携帯番号消し難く返事の来ないメールを送る

【佳作】（五首中一首を紹介）

中村 史子（茨城・土浦中央）

・「責任は私がとるよ好きにやれ」亡父ちちの一言今こそ欲しい

上山 康子（埼玉・荻島）

・幼子の頬の弾力ビザ生地をまあるくなれよと優しく伸ばす

新井 光代（埼玉・忍）

・捨て猫はどつぶり我が家の一員に拾いし吾子も一家を養う

新井 政枝（埼玉・忍）

・邪気払うめでたき赤と小豆干す老いたる父母に粥を炊かんと

内池 リエ（埼玉・宮町）

・美味しいと常にも言わぬ夫なれどおかわり二杯七草粥を

大場 ヤエ（千葉・酒々井）

・電話なく来客もなきわが日々を病安居やまいあんどと言ひて楽しむ

西堂路 正世（東京・大森）

・ただいまと蒲生の大楠に挨拶し故郷の匂いにほっと落ち着く

徳江 文（神奈川・都筑区）

・仏だんの今年さいごの大そうじご先祖さまも気持ちいいかな

内海 一江（神奈川・塚越）

・父母と家族が共に睦まじく結城つむぎの機織りし日々よ

新村 和子（神奈川・三春）

・病床に声なき夫の筆順を辿れば子の名「仲良くせよ」と

志賀 正彦（新潟・表町）

・藁舟の川面に浮かぶ流し雛乙女の願い乗せて漂う

天野 昭子（山梨・下吉田）

・亡き夫の広き背中を洗いし日これが最後とわからぬままに

山川幸代子（岐阜・大垣北）

・ひとり居のしづもる刻や除夜の鐘ほのぼのと聞く我が胸の内

宇佐見雅衣（愛知・尾北）

・音たてて扉閉めゆく青春のいらだちの子も猫には優し

貝沼 朋子（三重・四日市中央）

・どこからか煙草の臭い懐かしく墓石のかげに亡き夫しのぶ

干潟 佳子（京都・鳳凰）

・同じこと初めてのように話す父「聞いたよ」とつい遮る私

田植ワカコ（高知・福井）

・寒風の吹きぬける中間伐をしつつ夫婦で獣道行く

猿渡 貴子（福岡・草木）

・突然にガンの宣告受けし夫黄泉の父母への詫び状したたむ

島袋真砂美（鹿児島・龍郷）

・いつのまに作歌ノートは乱筆に隙間なきほど推敲の跡